



YMCA KOBE

Y M C A NEWS

神戸青年

No.607

2011.3

March

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7  
THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/坂本 庸秀  
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15  
TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479  
URL http://www.kobeymca.or.jp 印刷/わかばやし印刷



神戸YMCA  
年間聖句

主を待ち望め。雄々しくあれ、  
心を強くせよ。(詩編27編14節)

# イースター 早天礼拝のご案内

日時：2011年4月24日(日)  
午前7時～

場所：神戸東遊園地  
(雨天：神戸YMCAチャペル)

奨励：塚本 潤一 先生  
(頌栄短期大学宗教主事)



塚本 潤一 先生



昨年(2010年4月4日)のイースター早天礼拝(於：神戸東遊園地)

## 新春YYフォーラム開催!

1月8日(土)に新春YYフォーラムが開催されました。神戸YMCAとワイズメンズクラブ六甲部の共催で、神戸YMCAユース委員会と神戸YMCA創立125周年実行委員会が企画を行い、準備を進めてまいりました。

今年度のYYフォーラムは創立125周年のキックオフイベントということもあり、

125周年記念DVDの初上映を行いました。参加された約150名の方の表情から、興味・関心の高さを伺い知ることができました。

また、グループセッションでは、柳谷利起さん(神戸YMCA創立125周年実行委員)が作成してくださった『神戸YMCA125周年すごろく』で125年の歴史に触れる機会を持った後、「未来の神戸YMCA」についての絵や言葉、そしてメッセージを考え、125周年記念ポロシャツに表現していただきました。所属・年代の垣根を越え、さまざまな意見が出され、素晴らしい作品に仕上がりました。



素敵なポロシャツが仕上がりました



すごろくによって緊張が解けていきました

これらの作品が皆様の目に触れる機会を設けようと企画しておりますので、YYフォーラムに参加できなかった方もご期待いただければと思っております。

### マイエポックスストーリー ①

『人間をとる漁師になる』

上杉 徹

(元職員 社会福祉法人神戸真生塾 真生きらきら保育園園長)

若い頃の出会い、人の人生を変えるほど素晴らしいものである。

日本YMCA同盟が主催する職員研修での資料の中に学生時代の恩師である故藤間繁義(とうましげよし)先生の名前を見つけました。私と藤間先生との出会いは「インドネシア・ワークキャンプ」に参加した時でありました。その時の団長が藤間先生でした。どの様に生きるのかを迷っていた時に心を震わされるような恩師との出会い、キリスト教との出会い、そしてバリ島の児童養護施設の子どもたちとの出会いへと繋がりました。

当初、福祉施設で働くつもりであった私は子どもから大人まで幅広い年齢の人と関わる事ができるYMCAの活動に興味を持ち、神戸YMCAにて18年間働かせていただくことになりました。YMCAで働くことが決まった時には「君の仕事は神さまから与えられた大切な仕事であるから、日々の仕事をしっかりとがんばりなさい。」と励まされました。

私はその言葉を胸にYMCAでたくさんの子どもたちや学生、保護者、レイマン、働く仲間と関わり育てていただきました。子どもたちや若者との出会いの中で、それぞれの「いのち」が光り輝くことを願い、そっと側に寄り添える人になることに取り組んでいます。受洗した日本基督教団神戸教会の教会学校での奉仕を通して出会った神戸真生塾の子どもたちとの交わりから今の職場へと導かれました。

YMCAは子どもと若者の「いのち」が光り輝く場であり、そこに働くスタッフやリーダーはほんの少しではありませんが、その事をお手伝いすることができず。そこには、ガリラヤ湖畔でイエスがペトロとアンデレ、ヤコブ、ヨハネの4人の漁師を『人間をとる漁師にしよう』と招き、そのことに応えて行くような人間同士の出会いがあります。この様に子どもと若者が『希望』を持ち、その生き方が変わる場としての活動を続けていただきたいと思います。

「神戸YMCA125周年記念号」

「創立125周年によせて」

名誉理事 小西孝彦

神戸YMCA余島キャンプに弟分のキャンプが、日本全国4ヶ所にあつたことをご存知だろうか。それがアサヒキャンプで、朝日新聞の本社所在地、大阪・名古屋・東京・西部(九州)にあつたが、創立以来50年で全て閉幕した。

なぜ弟分キャンプかを説明しよう。余島キャンプの創立者、今井鎮雄先生は、1951年に関西学院大学社会学部社会学専攻(現在、社会福祉学部)の講師として、ソシアル・グループワークの講義を担当しておられた。先生は、当時アメリカに留学され、帰朝後間もない頃で、教材としてアメリカYMCAキャンプの実例が、その主な講義内容であつた。先生の講義はすばらしく、面白い内容で、当時余島キャンプの創設期でもあつた。私も1951年に余島に連れていっていただいた。私は1953年大学を卒業し、朝日新聞大阪本社に入社、厚生文化事業団(社会福祉法人)に配属、当時、戦争中に建設した生駒山頂のグライダー練習場と格納庫の跡地利用を任せられ、これがアサヒキャンプ第一号となつた。

1953年に余島キャンプで、神戸YMCA、朝日新聞社と共催で、日本初の肢体不自由児キャンプを実施、本紙に写真入りで特集した。このキャンプに参加した小学生の一人が、現在社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協合理事長で4ヶ所の障害者自立の家を経営している片岡實君である。

その後、今井先生に薫陶を受け、1954年に卒業した伊藤信三君が朝日新聞名古屋本社に入社、後に東京に転任、名古屋木曾川河畔の犬山、三河湾の梶島、東京湾の保田にアサヒキャンプを創設した。大阪本社では、その後、三重県志摩半島阿児湾内の多徳島に、後に琵琶湖西岸の朽木村にキャンプ場を移した。九州では、最初に小倉市の北、皿倉山に、後に阿蘇山の東にキャンプ場を移した。

いずれのキャンプ場とも、キャンプのやり方、プログラム、キャンプカウンセラーの教育など、全てが今井鎮雄先生の教えられた通り、自然環境はそれぞれに異なり創意工夫を重ねて組織キャンプを実施した。だが、基本は全て今井先生の教えに忠実にを行った。その意味で、今井鎮雄先生が創立された余島キャンプを忠実に見習った弟分といつても過言ではない。さらに、アサヒキャンプ50年間で正確数字ではないが、延何十万人の子ども、特にハンディキャンプをもつ子どもに大自然の楽しさと仲よく生きることを、そして将来への希望を与えることが出来たキャンプ事業は、今井鎮雄先生なくしては生まれてこなかった。

アサヒキャンプは50年でその歴史を閉じたが、子どもたちの心には、永遠に残っている。

「ファミリースキーにご奉仕、25年！」

鈴木博和さん(常議員・財団法人理事) 光子さん(学校法人理事・財団法人評議員) ご夫妻が、年末年始のファミリースキーのボランティア指導者としてご奉仕くださり、連続25年を迎えました。山口徹前総主事からの依頼を受けて、スキーによる「新しいファミリープログラム」開発と担当するスタッフ養成を目的に始まったご奉仕が25年の長きにわたって続けられました。その間、事故もなく、多くのYMCAファンができましたし、子どもたちは大きくなってボランティアリーダーになった方もおられ、大きくYMCAの輪が広がりました。25年もの間、年末年始のお休みをファミリースキーに捧げてくださった鈴木さんご夫妻に心から感謝申し上げます。(水野雄二)



500人のゴスペルコンサート開催

神戸YMCAが指定管理者として運営に携わらせていただいている、兵庫県立文化体育館が震災の記念イベントとして1月16日(日)に「500人のゴスペルコンサート」を開催しました。一般参加のシンガーを募集し約300名の応募があり、当日大阪を中心に活動する human note という歌のグループ約300名とあわせて600名がステージに立ちました。また、加古川と高砂出身の女性デュオ花\*花さんがスペシャルゲストとして出演して下さい、以前紅白に出演されたところと変わらない素晴らしい歌声を披露いただきました。

今回は2回目の開催となりましたが、前回出演されたのをきっかけにボランティアが組織された事が、大きな進歩ではなかったかと思えます。メンバーは被災



災された方から全く当時を知らない方まで様々です。中には「今でも被災した場所に行く」と、涙が止まりません。「震災のことは、辛いのでまだ語れない」という方もおられます。でも、このコンサート準備を通して震災と向きあおうとされており、その姿勢から一緒に活動する震災を知らないボランティアの方は多くのことを学んだように思います。また、「震災で娘さんを亡くし、ご自身も体が不自由になり参加できないけど頑張ってください。」と応援のお手紙もいただきました。これにはボランティア全員が勇気付けられました。

このように多くの方々への思いが集まったコンサートのフィナーレに「しあわせ運べるように」を会場全体で歌いました。「亡くなった方々の分も毎日大切に生きてゆこう」という歌詞の重みを感じ、また未来に向かって元気をいただいた気がしました。

最後に係わって下さった全ての方に感謝します。ありがとうございました。

三田YMCA会館移転

2011年2月より、三田YMCAは、三田駅北側、176号線沿いのビル1Fに活動拠点を移転致しました。三田にYMCAが誕生して20年。その間の活動を通じて、30名を超える学生ボランティアリーダーが地域の子もたちと共に、活発にプログラムを展開しています。4月からはそういった青少年活動を中心に事業を集中し、小さな拠点でリーダーシップの交流と養成を行い、市域の広い三田市のそれぞれの地域にリーダーがこちらから出かけていく、というスタイルの事業を行っていきます。今後もお支えをよろしくお願いいたします。

西宮YMCA保育園は、0才から就学前までの70人の子どもたちがいて、毎日楽しく遊びながら生活しています。1月には人形劇団『クラルテ』に来て頂き、みんなで人形劇を見ました。大きな舞台で、まるで生きているように動く人形に釘付けになり、効果音や楽しいストーリーにずっと大笑いの子どもたち。「ちがうよ。こうすればいいのよ！」と思わず『人形』に教えてあげたり、「あ〜！」と叫んだり、小さいお友だちから年長さんまでみんなが話の世界に入り込んでいました。地域のお友だちも毎年参加していて、お母さんに抱っこをされながら、身を乗り出して夢中になって人形劇の世界に入り込み、保育園の子どもたちと共にとても楽しいひとときを過ごすことができました。

西宮YMCA保育園



人形劇を見ました



六甲ウインターキャンプで遊ぶことができました。2日目の六甲山人工スキー場では、YMCA幼稚園の園児たちはみんな「そり遊びの達人」と言っているくらい足のブレキ操作も巧に、満面の笑顔でそり滑りを楽しんでいました。お泊まりをした経験で、みんなが少しくなりました。そのような気がしています。

神戸YMCAちとせ幼稚園、西神戸YMCA幼稚園では、さる1月6日(木)〜7日(金)の1泊2日で年中、年長児の希望者約180名の参加があった、六甲ウインターキャンプを実施しました。このキャンプは毎年、年明けに行われ、今年も六甲山牧場で動物と遊んだり、六甲人工スキー場でそり遊び、雪遊びを楽しみました。子どもたちは自然の中で、お友だちや先生、リーダーたちと交わり、思う存分遊ぶことができました。今年にはちとせ幼稚園の時期と重なり、1日目から六甲山には雪が降り積もり、頂上に着く頃には辺り一面雪景色でした。宿泊する六甲山YMCAでも、積もった雪で、子どもたちは雪合戦をしたり、雪だるまを作ったりと、しっかりと雪で遊ぶことができました。2日目の六甲山人工スキー場では、YMCA幼稚園の園児たちはみんな「そり遊びの達人」と言っているくらい足のブレキ操作も巧に、満面の笑顔でそり滑りを楽しんでいました。お泊まりをした経験で、みんなが少しくなりました。そのような気がしています。

六甲ウインターキャンプ

高等学院の卒業式を控えて

高等学院に入学してくる生徒は、心のどこかにつらさを抱えています。はじめがあったり、人間関係が上手いかなかったり、学習の成果が思うように上がらなかったり。彼女らに関わる私たちは、生徒たちが自信と希望を取り戻し、「いのち」が再び光り輝くことが喜びであり使命であると考えています。卒業式である生徒が語ってくれたスピーチです。「僕は自分のことが嫌いで嫌いで仕方ありませんでした。友だちが出来ない、何をやっても上手くいかなかった。そんな自分が嫌いで嫌いで仕方ありませんでした。でもYMCAに入學すると、みんなから声をかけられ、励ましてくれる。こんな僕にもたくさん友だちが出来て、高校を卒業できるようにになりました。本当に有難うございました。」入学してきた頃の彼はいつも自信のない目を私たちに向けていました。しかし、クラスメイトとの交わりや学習の取り組みを通して、周囲に気を配ることでできる心優しい本来の自分自身を取り戻していききました。私は彼のスピーチを聞きながら、目頭が熱くなってきました。今年、7期生20名の生徒がYMCAを巣立っていきます。どうか、今年も卒業生一人一人がそんな思いを胸に新しい世界に飛び出して欲しいと願っています。

「世界と地球を見つめ、考え、行動すること」が、ありたい世界、狭くなった地球に目を向けると、災害、貧困、紛争など、多くの課題を抱えていることを知ります。私たちの神戸YMCAでは、平和とはどういうことか、ともに生きることはどういふことか、私たちの活動を通してできることは何かを、一緒に考えつつ行動していかうと思っています。神戸YMCAの平和への取り組みとして、「平和のための子ども巡回絵画展」を、実施しています。この巡回絵画展は、2003年、世界の平和を願って、子どもたち一人ひとりがそれぞれに願い、イメージする「平和」を絵画に描き、ともに展示して鑑賞することを通して平和の実現に寄与しようと、東アジアに属する3つのYMCA(日本・神戸、中国・天津、韓国・釜山)で初めて開催されました。3回目からは、タイ、米国も参加、5ヶ国での開催となりました。今回、8回目となる同展は、昨年10月から天津、タイ・チェンマイ、神戸を経て、2月に釜山でフィナーレを飾りました。神戸での絵画展は、去る12月23日から1月15日まで開催され、阪神御影駅すぐ北の御影クラッセ4階のユースプラザKOBEBEASTでは、フリースペースを利用して中高生の皆さんを中心に、神戸YMCA三宮会館では、小さな子どもたちから成人の方々まで、訪れた多くの皆さんに、力強い作品をご覧いただき、平和への思いを合わせていただくことができました。また、11月・12月を「平和月間」として、神戸YMCA三宮会館チャペルの壁に、三宮会館チャペルの壁に、平和の木を作り、ひとつひとつハートに、それぞれの平和へのメッセージが込められた、素晴らしい木となりました。一人ひとりの心に平和のメッセージが届けられたことを信じて、これからも平和への歩みが続いていきます。



シリーズ「くさくさのまど」17

ソナタ 奏鳴曲 No.46



総主事 水野雄二

「まさか」の上の雲

人生には3つの坂がある、とある本に紹介がありました。「上り坂と下り坂」そしてもう一つ、「まさか」という坂があるのだと言うのです。その「まさか」の時にどう対処するかで、その人の人生の値打ちが決まるのだとありました。本当に人生には何が起るかわかりません。16年前の阪神淡路大震災も私たちには「まさか」の出来事でした。

昨年のクリスマスに、私の知人で20歳の女性が交通事故に遭い、今も集中治療室で懸命の治療が続けられています。彼女の回復を願わずにはおられません、神様が与えた試練の意味を図りかねているのは私だけではないでしょう。ご家族や親しい知人にとっては「まさか」を受け入れがたく、つらいクリスマスとなりました。

神戸YMCAは今年で創立125周年を迎え、歴史を振り返りその恵みに感謝をし、また未来を望もうとしています。その長い歴史の中でも、戦争や震災など多くの「まさか」の出来事に見舞われました。思えば1945(昭和20)年の6月5日、神戸大空襲によって神戸市民に愛された「赤レンガの青年会館」を焼失し、戦後の第一歩は神戸教会の地下室をお借りしてのスタートでした。当時の本城敬三総主事は、しばしば誰もいない礼拝堂で声を上げて祈っておられたと伝えられています。「神様、神戸の街にYMCAを再建させてください。会館を与えてください。」と。そして、神戸YMCAは「まさか」を超え、新しい会館を与えられて戦後の歩みを進めてきました。

神戸YMCAの2011年度の年間聖句は「希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。」(ローマの信徒への手紙12:12)が選ばれました。私たちは誰しもしばしば耐え難い苦難に襲われ、しかもそれは予期しない時に与えられます。しかし、きっといつか新しい道を神様が備えてくださることを信じて、「まさか」の上の雲を見上げながら、坂を上っていきたいと思います。

ウエルネスセンター三宮	☎078 (241) 7202
YMCAホームヘルパーの事務所	☎078 (241) 7237
ランゲージセンター	☎078 (241) 7204
専門学校	☎078 (241) 7203
西宮YMCA	☎0798 (35) 5987
三田センター	☎079 (559) 0075
余島野外活動センター	☎0879 (62) 2241
国際・奉仕センター	☎078 (241) 7204



ウエルネスセンター学園都市	☎078 (793) 7401
西神戸YMCA	☎078 (793) 7402
西神南センター	☎078 (993) 1560
須磨YMCA	☎078 (734) 0183
YMCA保育園	☎078 (794) 3901
西宮YMCA保育園	☎0798 (35) 5992
西神戸YMCA保育園	☎078 (792) 1011
YMCAちとせ幼稚園	☎078 (732) 3542
西神戸YMCA幼稚園	☎078 (997) 7705

## 卒業リーダー感謝

今年も学生時代の貴重な時間と力をささげ、YMCA活動の担い手になってくださったボランティアリーダーの皆さんが巣立っていきます。リーダーのご奉仕に心から感謝すると共に、奉仕活動を通して彼らが得たものがこれからの糧になることを願っています。以下は、この春に卒業するリーダーの皆さんです。(順不同)

### 【余 島】

相原健志	揚倉弘介	新井佑花	小倉明子	栗下綾香
神木菜津美	下久保美里	杉町佳美	杉山智絵	瀬川ゆかり
谷口 匠	辻沙喜子	土屋真一	藤堂論志	中裏修平
永田琴子	西岡夏未	平野靖明	松田啓希	溝内香里
南 達也	村上裕亮	森 智美	八木敦史	矢倉 隆
林 慧美	柴田沙耶子	片桐怜美	戸田優理亜	

漆山あかね	新澤未来	寺内千景	平野 梓	藤田朋子
松本和也	植田菜津美	中西彩香	野田王琴	清水真優

### 【西神戸野外】

森保奈央	梶悠莉子	中澤香里	坂本亜沙美	廣瀬 歩
赤穂智千夏	岡田紘和			

### 【国 際】

佐藤めぐみ

### 【三田野外】

孫田翔次	稲角 彩	岩下早紀
佐々木留実	益永祐子	藤川恭子
中井麻友美		

### 【三宮野外】

井坂康彰	井上志穂	大濱健人	鮫島恵梨	鷹津千佳
高橋美華	谷口 舞	馬場裕子	久宗未佳	平原愛美
前田 和	真島 香	矢張智子		

### 【西宮野外】

新野浩子	倉持有沙	宮脇華帆	下田真以	三宅里奈
------	------	------	------	------



## Photo Topics



12/26~29 スキーキャンプ

今年のスキーキャンプは豊富な新雪の中で実施できました。ユースボランティアリーダーに見守られながら、子どもたちは初心者も経験者も白銀の世界へ飛び込んでいき、自信を持ってグングン上達していきます。「自然の中でチャレンジし、自然とともに遊ぶ楽しさを知る」という体験を通して地球と私たちのつながりを感じられたことと思います。



1/22~23 中西日本YMCA ユースバスケットボール大会

兵庫県立総合体育館に約300人の仲間が集い、中西日本YMCAユースバスケットボール大会が開催されました。



1/24・1/31 ベビー特別プログラム “ベビー体操”

4カ月~2歳までのベビーちゃんとママたちが三宮に集いました。大好きなママにグーっと抱っこしてもらったり、大きな箱積木であそんだり、布のボールをポイッとしたりするのも、みんなニコニコとってもいいお顔でした。

	<p>【寄付金】</p> <p>中山豊美、松田喜久子、芦屋ワイズメンズクラブ、神戸YMCAベルクワイヤー (敬称略、順不同)</p>	<p>【神戸YMCA創立125周年協賛金】</p> <p>*②は、入金2回目を表します。</p> <p>岡野重和、佐野 睦、河本裕三、阿部信太郎、西宮ワイズメンズクラブ、美崎 晋、阪根 新、吉井宏一郎、柳あつ子、筒井奈美、関口真由美、竹田欣志②、竹田直子②、山本智恵、田辺淳子、谷 紳一、星野昌枝②、中村真紀子、岡井文子、都筑省三、柏原佳子、馬場 一郎、澤井久美子、池田順子、上野恭男、吉岡浩一、岡山泰典②、山本常雄②、カンノ空調株式会社、株式会社グリーンヒルホテル、中村和光、藤井とも子、山本亮司、岩井義矢、西本馨、片山里花、小林真由美、目崎勝代、渡邊厚子、中村賢次郎、竹浪淳子、永井道子、和田 雪、喜多村薫、上杉直子、大谷真理、橋本千恵、寺岡和紗、木下都紀子、神野敬子、市野瀬美奈、神戸YMCAちとせ幼稚園2010年度バザー、西神戸YMCA幼稚園2009年度バザー、西神戸YMCA幼稚園2010年度バザー、西宮YMCA・西宮YMCA保育園2010年度カーニバル、神戸YMCA2010年度国際協力バザー</p>
--	--	--

### ★★ 個人消息 ★★

【ご逝去】 謹んでお悔やみ申し上げます。	
12/11 白井 恵理子さん (本部事務局) ご祖父様	
12/21 丹羽 武夫さん (神戸ポートワイズメンズクラブ、くさぶえコーラス会員)	
1/18 秋田 博正さん (神戸YMCA維持会員、神戸YMCA後援会アドバイザー)	
1/19 松森 正樹さん (西神戸ランチ) ご尊父様	

1/23 荒木 潔 さん (神戸西ワイズ)	
【受洗】 おめでとうございます。	
12/19 辻田 康佑さん (ウエルネスセンター学園都市)	
【退職】 お疲れさまでした。	
12月末 兜坂 和美さん (西神戸ランチ)	